

紙 野 案 起

大正五年十二月四日起案

起案者

十二月六日發付

發付掛
捺印

小林

案者捺印

(主務) 軍務局長

第二課長

局員

大臣 濟

次官 濟

副官
參事官

山縣

山縣

山縣

經理局長

水事局長

艦政局長

代

河田

河田

河田

大正五年十二月六日

海軍次官

吳鎮長官宛

見學ノ件

英國駐在海軍大佐 橫尾 尚

號番

官房第三五八三號

局、部	官房	軍務	人事	醫務	經理	司法	艦政	技術	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日	受月日												
發月日													

觀覽

1903

12. 6

12. 5

5. 12. 5

右者本月十一日より本月十三日ニ至ル間ニ於テ貴府
工廠見學爲致度矣条可然便宜ヲ與ヘラレ度
右照會ス

(終)

官房第三五八三號

大正五年十二月六日

海軍次官

陸軍次官宛

見學ノ件

海軍大佐 横尾 尚

右者本月十四ヨリ本月十六日ニ至ル間ニ於テ大阪砲
兵工廠見學爲致度矣条御承認ノ上可然便宜
ヲ與ヘラレ度

右照會ス

終

大正五年十二月六日

海軍省署

住友伸銅所長

株式會社大阪鐵工所社長

株式會社

大阪製鎖所所長

宛

株式會社神戸製鋼所社長

株式會社川崎造船所社長

東京市上野区
田原町

奥村電機商會主事 奥村信

見學ノ件

海軍大佐 横尾 尚

右者本月十四日より本月十六日ニ至ル間、於テ貴所

（商會）ヲ見學致度希望ニ有之矣、余相當便宜ヲ得

官房第三五八三號

ラレ矣様御取計相成度
右照會ス

終

藤原納

1906

65

紙 罪 案 起

大正五年十二月四

日起案

起案者
捺印

十二月七

日發付

發付掛
捺印

發付後起
案者捺印

(主務) 軍務局長

第二課長

大臣

副官

次官

參事官

局員

經理局長

勝

第一課長

久野

人事局長

岡田

第一課長

北村

局員

植村

大正五年十二月七日 次官

十二月四日附出願費國駐在海軍大佐横尾高帰省
及見學旅行一件認許ス

番

官房第三五九六號

局部	官房	軍務	人事	醫務	經理	司法	艦政	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日	ナラエ	/	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七
發月日	ナラエ	ナラエ	ナラエ	ナラエ	ナラエ	ナラエ	ナラエ	ナラエ	ナラエ	ナラエ	ナラエ	ナラエ	ナラエ

1908

○旅費ハ神戸往復ノ分ヲ支給ノ事ト

藤原 納

1909

軍務局

大正五年十二月四日

英國駐在海軍大佐横尾 尚

海軍次官鈴木 貫太郎殿

帰省及見學旅行ノ件

小官儀本邦出發赴任前左記ノ旨取ヲ以テ
帰省及見學旅行致度ニ御認計相成度
右出願ス

左記

官房第三五九六號

五十五 四日
軍務局接受

日 月 年
陸軍省

1910

自十月七日
 至十月十日
 東京、佐賀、赤松町、横尾義男方
 自十月十日
 至十月十一日
 吳海軍工廠
 自十月十一日
 至十月十二日
 神戶、大阪、京都、於ケル諸工場
 自十月十二日
 至十月十三日
 歸京

1911

矢野

大阪砲兵工廠
住友伸銅所
大阪鐵工所
大阪製鎖所
神戶製鋼所
川崎造船所
奥村電機商會

大阪北區安治川上通
大阪西區北安治川通
大阪北區安治川南通
神戶照漢所
京都上京區岡崎

右十五十六日見

1912

紙 野 案 起

大正五年十二月十三日起案

起案者
捺印

十二月十四日發付

發付掛
捺印

發付後起
案者捺印

(軍務) 軍務局長

第一課長

局員

大臣

次官

參事官

副官

山縣

大正五年十二月十四日

海軍大臣

大校第七十八號軍艦山城ノ全力公試見學ノ件

認許ス

號番

官房第三十六號二

局部	官房	軍務	人事	醫務	經理	司法	艦政	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日	十二月十四日												
發月日													

1913

終

官房第三六九號三

大正五年十二月十四日

海軍次官

横鎮長官宛

軍艦山城全カ公試見學ノ件

海軍大學校教官海軍教授浦口善爲

右者ニ對シ軍艦山城ノ全カ公試見學ノ件認許相

成矣奈可然御取計相成度

右申進ス

終

藤原納

1914

軍務局

十一月十一日

大正五年十一月十一日
大校第七二八號

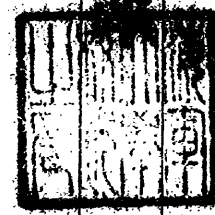
海軍大臣加藤友三郎殿

第一課長

局員

見

海軍大學校長 佐藤鐵太郎



海軍大臣加藤友三郎殿

第一課長

局員

見

浦口海軍教授ニ軍艦山城ノ全力公試ヲ見學子セシメ度件

教官 海軍教授 浦口善爲

右ニ對シ来ル十一月十九日横須賀軍港ニ於テ實施セラル、軍艦山城ノ全力公試ヲ見學子セシメ度矣余御認許相成度

官房第三六五號

1915

1172

右具申ス

洋
頁

終

1916

起案罪紙

番號

砲校機密第三五三號ノ一實驗飛射並吳工廠
見帶ノ件認許ス

大正五年十二月十三日

海軍大臣

電報

技術本部長

第一部

長

新山

艦政局長

第二課長

大臣 大藏
次官 官廳
參事官
副官 大審
軍務局長
第一課長

局員

大正五年十二月十三日起案

起案者 陸軍省

十二月十三日發付

發付掛 陸軍省

發付後起 案者捺印

局、部	受月日	發月日
官房	十二月十三日	
軍務	官房受	十二月十三日
人事		
醫務		
經理		
司法		
艦政		
技術		
造兵		
教育		
臨建		
水路		
軍令		

十二月十三日午後一時廿分發電

終

1917

觀覽

電報

大正五年十二月十三日

海軍次官

吳鎮長官宛

海軍中佐松本匠本月十一日より施行中ノ魚ヲ首實驗
飛射並吳工廠砲煩部、製鋼部及火藥試驗所
見學ノ件認許セラル

十二月十三日 星期一 特達

捺原納

1918

軍務局

三月十一日

至急

教習部



副官



士官

三五三

大正四年十二月十二日

海軍砲術學校長加藤寛治

加藤友三郎殿

實驗發射註吳工廠見學ノ件

左記者本月十一日施行中ノ電々實驗發射註吳
工廠砲術部、製鋼部及火藥試驗所見學ノ意ノ
差遣爲致度候奉御認許相成度

右上申

第一課長

局員 海軍中佐 松本 匠

匠

海軍機密第五元端

海軍

634

1919

五、三十三

海軍砲術學校附屬用紙

吳工廠見
學差許

大

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

PC			吳	五				
----	--	--	---	---	--	--	--	--

1919

五、三十日
軍務局

海軍砲術學校附箋用紙

大正五年十一月十一日

海軍砲術學校長

福田

吳工敵見學、實驗、發射期間中
御差許相成度

1920

紙 野 案 起

號番

海軍少佐佐藤己之吉 艦首試驗發射視察

吳鎮長官宛

大正五年十二月十一日

海軍次官

電報

軍令部

濟

副官

第一班長

十二月十一日午前一時の發電

大臣

次官

參事官

(主務)

軍務局長

(事務)

第一課長

局員

大正五年十二月十一日起案

起案者 捺印

(捺印)

十二月十一日發付

發付掛 捺印

(捺印)

發付後起 案者捺印

軍令部	水路	臨建	教育	造兵	技本	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
受月日發月日													
十二月十一日													

觀覽

1921

出張件認許セラル

済

1

松原納

1922

至急

軍務局

大正五年十一月

海軍軍令部副官坂本則俊

大角海軍少佐

海軍少佐

海軍軍令部副官坂本則俊
海軍少佐

海軍少佐

海軍少佐

海軍

十一月十二日

1923

(坂田 納)

片多考

大正五年十月十六日

軍艦山城

海軍省 見學者所轄廳御中

三月十日
官房受

軍務局
五、三十七

軍務局

於十九日二十日(日)於本艦汽機發射時刻

左ノ通り

第一課

第二課

一十九日

水ヶ浦發午前五時五分逸見被止

二十日

經由

水ヶ浦發午前六時五分逸見被止場

右通知ス

(當日見學者ハ辨當持参ノ下)

終

1924